

決算報告

平成26年度の一般会計・特別会計・企業会計の決算がまとまりましたのでお知らせします。

一般会計の決算規模は「歳入587億円」、「歳出569億円」となり、差引18億円のうち、繰越財源の4億円を除いた実質収支額は14億円（四捨五入）の黒字となりました。

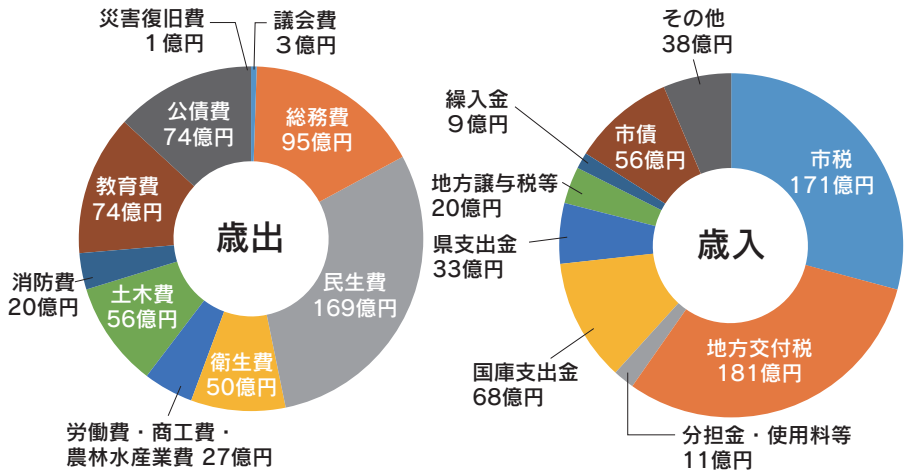
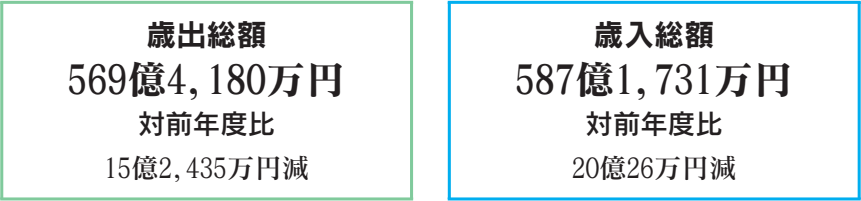
問 財政課（☎65・6506）

※（ ）内の金額は、前年度との比較

歳入内訳

歳出内訳

一般会計



特別会計

区 分	歳 入	歳 出	差 引	特 徴
国民健康保険	127 億 4,468 万円	125 億 9,145 万円	1 億 5,323 万円	1人当たり医療費が増え、財源不足が生じたため、基金から繰り入れて対応しました。効率的運営を進めるとともに、保険料の見直しが必要となります。
診療所	5 億 2,161 万円	5 億 2,107 万円	54 万円	平成26年10月に浅井東診療所を開設。診療所運営は厳しく、基金繰入で対応する状態が続いています。より一層効率的な運営と医療提供体制の確保に努めます。
後期高齢者医療保険	12 億 924 万円	12 億 836 万円	88 万円	後期高齢者医療制度は、市と滋賀県後期高齢者医療広域連合が事務を分担し運営しており、市は保険料の徴収事務等の業務を担っています。
介護保険	102 億 3,646 万円	101 億 5,178 万円	8,468 万円	保険料の増などで歳入は前年度を上回りました。差引額は、国県支出金等の確定に伴う返還金の財源とするため繰越しました。
休日急患診療所	3,558 万円	3,443 万円	115 万円	内科および小児科の初期救急医療を実施しました。受診者数は4,000人を超え、救急病院の負担の軽減を図りました。
公共下水道	56 億 280 万円	55 億 4,809 万円	5,471 万円	広域処理により、汚水処理費が抑制でき、使用料で管理費の全額と資本費の一部を回収できている状況です。
農業集落排水	14 億 6,057 万円	14 億 5,966 万円	91 万円	単独処理のため、汚水処理費が割高となり、使用料で管理費の全額が回収できていません。今後は公共下水道への統合を進め、経営の改善に努めます。
簡易水道	6 億 5,476 万円	6 億 2,330 万円	3,146 万円	現在、地域に散在する施設の統合を進めており、今後も経費を削減するため、長浜水道企業団への事業の統合を進めます。

企業会計

病院事業			
長浜病院		湖北病院	
収益的収入	収益的支出	収益的収入	収益的支出
128 億 4,030 万円	153 億 9,238 万円	23 億 5,611 万円	30 億 9,661 万円
純損益 △25 億 5,208 万円(経常損益 △3 億 1,827 万円)		純損益 △7 億 4,050 万円(経常損益 △1 億 3,349 万円)	
病院事業決算(長浜病院・湖北病院)は、医業収益が前年度と比較増加しましたが、会計制度の改正により、計上義務化となった引当金(将来必要となる経費を見込んで留保するためのお金)が増加したこと等に加え、消費税率の引き上げによる影響等で赤字となりました。			
今後も地域の基幹的な公立医療機関としての使命を踏まえ、経営の安定化に向けて取り組んでいきます。			

木之本・高月水道事業		老人保健施設事業	
収益的収入	収益的支出	収益的収入	収益的支出
3 億 3,153 万円	4 億 2,455 万円	4 億 4,132 万円	4 億 7,096 万円
純損益 △9,302 万円(経常損益 △9,150 万円)		純損益 △2,964 万円(経常損益 △431 万円)	
給水人口の減少、水需要の低下により、厳しい経営状況にあります。平成27年4月から長浜水道企業団へ事業統合し、経営の合理化、効率化を図っています。		利用者数は、前年度と比較し増加しましたが、会計制度の改正により、計上義務化となった引当金(将来必要となる経費を見込んで留保するためのお金)の増加等により赤字となりました。今後も介護ニーズに応えるべく、湖北病院等と連携を図り、適切な介護サービスを提供していきます。	

●市の会計区分について

